

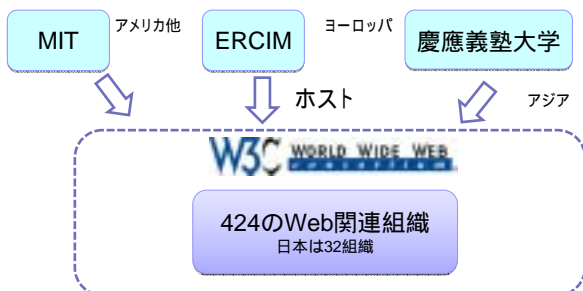
# World Wide Web Consortiumの 改めての紹介

萩野 達也  
慶應義塾大学環境情報学部  
World Wide Web Consortium  
hagino@w3.org

1

## World Wide Web Consortiumとは

- 424組織が参加するコンソーシアム
  - 32日本組織が参加
- 3つのホスト組織が運営



<http://www.w3.org/>

(2008年5月20日現在)

2

# Web誕生

## ■ 1990年Web誕生

- Tim Berners-Lee
- スイスCERN内の情報の管理のために提案

ハイパーテキスト + インターネット      Web



# W3C設立

## ■ 1994年W3C設立

- MITのConsortiumとして
  - Webの可能性に着目
  - X Consortiumの次として出発
- IETFではWebを標準化できない
  - HTTPはIETFと協力し標準化
  - 初期のHTMLはIETFで標準化
- Webの可能性を最大限に引き出す
  - Webの基盤部分の標準化
  - オープンなWebを維持(ロイヤリティー・フリー)
  - Webの全体アーキテクチャを示す

## 日本ホスト設置

### ■ 1996年慶應義塾大学にホスト組織を設置

#### □ World Wide WebをWorld Wideに

- 日本企業の意見を取り入れる
- アジア言語の取扱

#### □ 3ホスト体制確立

- MIT CSAIL (当時はLCS)
- ERCIM (当時はINRIA)
- 慶應義塾大学SFC研究所 (湘南藤沢キャンパス内)



#### □ 技術者を3ヶ所に配置

#### □ 活動はホストを超えて横断的

## W3Cオフィス

### ■ 17ヶ国にW3Cオフィスを設置

- 技術スタッフは置かない
- 各国でのプロモーション活動

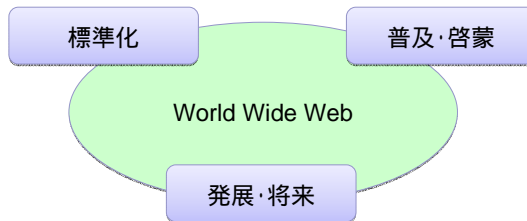


オーストラリア  
 ベネルックス  
 ブラジル  
 中国  
 フィンランド  
 ドイツおよびオーストリア  
 ギリシャ  
 ハンガリー  
 インド  
 イスラエル  
 イタリア  
 韓国  
 モロッコ  
 南アフリカ  
 スペイン  
 スウェーデン  
 英国およびアイルランド

# W3Cの役割

- (1) Webの標準化
- (2) 正しいWebの普及・啓蒙
- (3) Webの可能性と将来を示す

*Leading the Web to Its Full Potential...*



7

## W3Cの役割(1)

# Webの標準化

### ■ Webにはさまざまなプレーヤーが関与

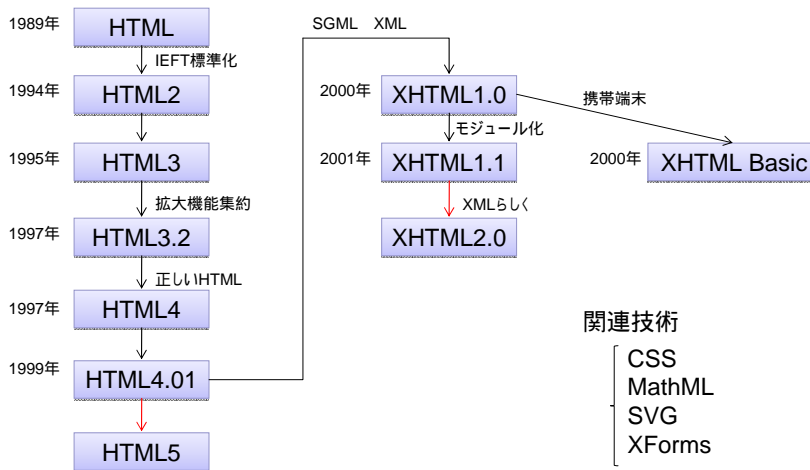
- Webブラウザ・ベンダー
- Webサーバ・ベンダー
- Webサイト構築者
- Webアプリケーション作成者
- Webデザイナー
- Webユーザ



- ### ■ 互いに問題なく情報のやり取りができるように
- Webが共通のプラットフォームになるように
  - 標準化
  - オープンなフレームワークの確保

8

## (例)HTMLの標準化



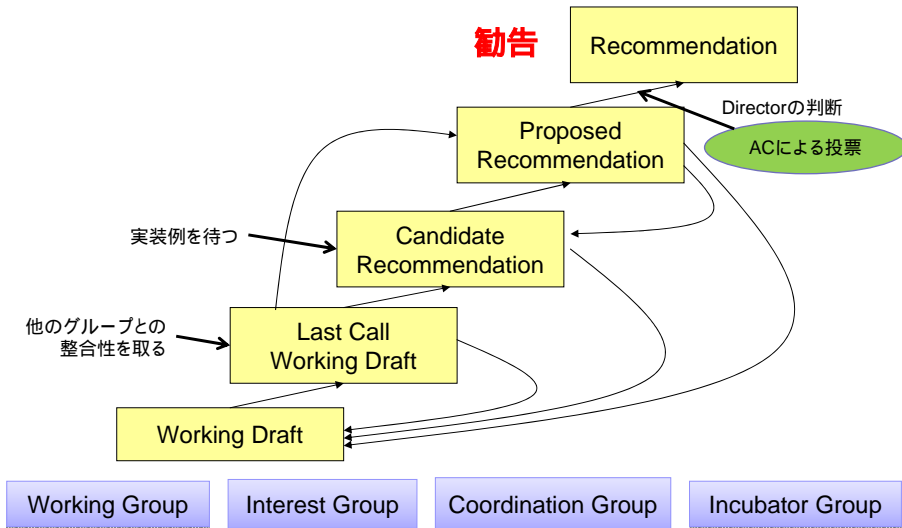
9

## 標準化

- 寄せ集めではいけない
  - Aの提案 + Bの提案 標準
  - 多数意見が良いわけとは限らない
- 設計思想が重要
  - 宣言的
  - 内容と表現の分離
  - URIの不変性
- 急激な変化は避ける
  - 最小限の必要な機能から始める
  - Full機能を作成してから携帯用にTinyを作成
  - 変化に対応するための移行措置も必要

10

# W3Cの標準化プロセス



11

# 標準化団体の比較

- ISO
  - 国際標準化機構
  - 各国から1機関が参加
- IETF
  - だれでもが参加可能
  - 年3回の会議において標準化が話し合われる
- W3C
  - 組織(企業など)がコンソーシアムに参加し標準化
  - 各WGが電話会議・F2Fなどにより標準化
  - 専任の技術スタッフを持つ
  - 学術組織が統括

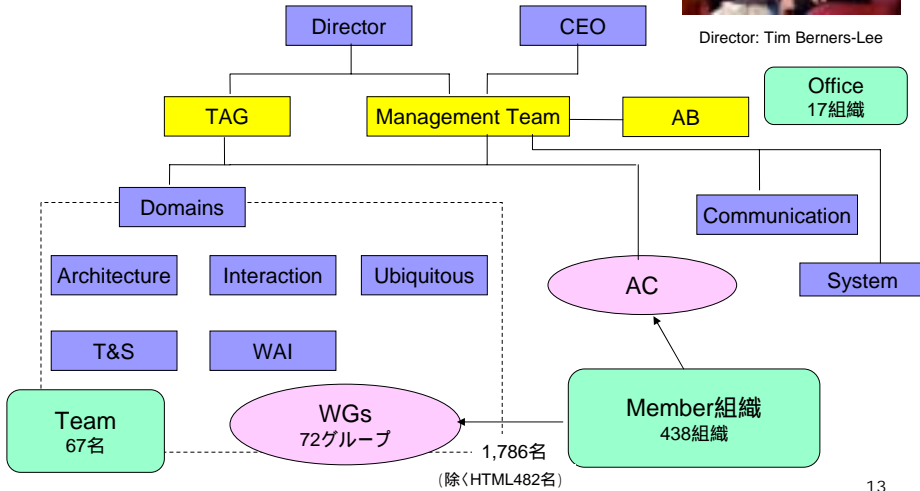
12

# W3Cの組織

W3Cの役割



Director: Tim Berners-Lee



13

W3Cの役割(2)

W3Cの役割

## 正しいWebの普及・啓蒙

- 文法的に正しくないWebページが氾濫
  - 標準化だけでは使われない
  - 正しいことが必要なことを啓蒙
  - Validatorなどのチェックツールを公開
- 文法的に正しいだけではダメ
  - 形だけのチェックでは不十分
  - 設計精神に従って使わないといけない



14

# WAI (Web Accessibility Initiative)

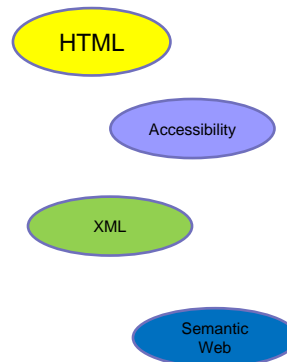
- だれでもが等しく情報にアクセスできるように
  - 健常者 vs. 障害者
  - 若者 vs. 高齢者
  - オフィスでの仕事 vs. 車運転中
- ガイドラインの作成
  - Webコンテンツ作成のガイドライン
  - オーサリング・ツールのガイドライン
  - ユーザ・エージェントのガイドライン
- ツールの開発
  - ツールの紹介・検索
- 啓蒙活動
  - 啓蒙活動資料の作成



## W3Cの役割(3)

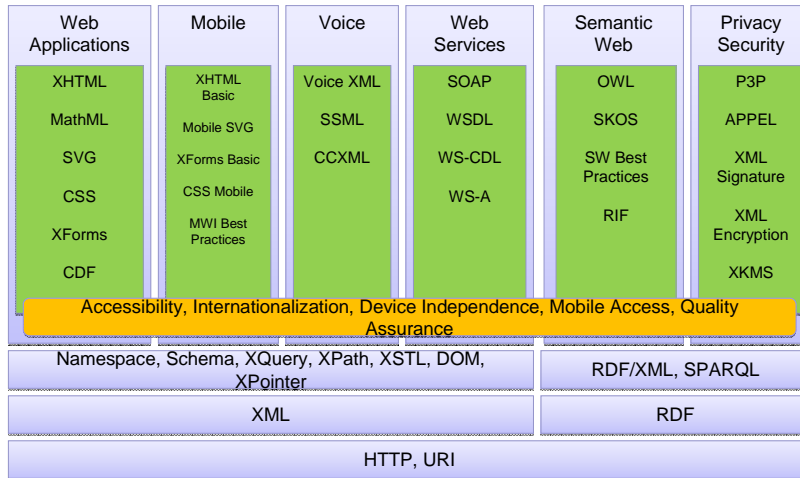
# Webの可能性と将来を示す

- だれでもが使えるWeb
  - 国際化
  - 健常者 vs. 障害者
- すべての機器でWebを利用
  - PC vs. 携帯端末
- 知識ベースとしてのWeb
  - 文書 vs. 機械処理
- 信用と信頼の確立
  - 電子商取引
  - プライバシー保護





# Web技術階層



17

# W3C アクティビティ

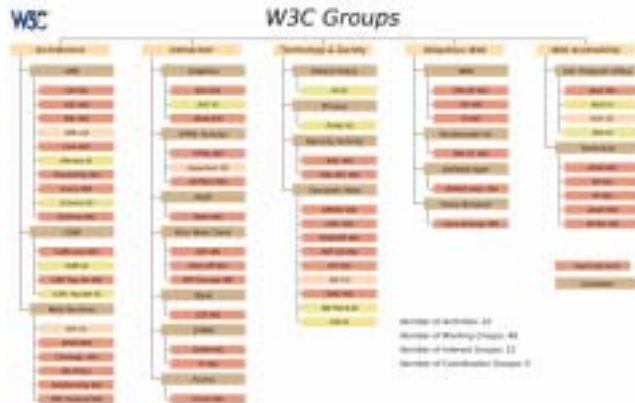
## ■ 21のアクティビティ

XML	Security
Graphics	Semantic Web
HTML	Style
Internationalization	Synchronized Multimedia
Math	Ubiquitous Web Applications
Mobile Web Initiative	Voice Browser
Multimodal Interaction	WAI International Program Office
Patent Policy	WAI Technical
Privacy	Web Services
Rich Web Client	XForms

<http://www.w3.org/Consortium/activities>

18

# W3Cグループ



19

# W3Cとユーザコミュニティ

- Webはみんなのもの
  - ブラウザベンダー
  - Webサイト作成業者
  - Webアプリケーション作成者
  - 研究者
  - ユーザ
- 活動内容は一般に公開
  - 仕様はすべて公開
  - 利用にライセンス不用
  - 一般参加可能な活動もある
- International World Wide Web Conferenceで説明
  - 毎年開催される国際会議
  - W3C Trackとして活動を公開
- Web関連ツールを公開
  - Validator



Webは活動の基盤を与える

20

# W3Cのサポートのお願い

- Member組織として参加
  - WGに参加して標準化参加
  - XGを作成
  - Submissionを出す
- ユーザとしてサポート
  - 公開WGに参加
  - コメント等を寄せる
  - サポータープログラム
  - 仕様の翻訳
  - 正しい仕様の利用の促進
- 技術者としてW3Cで働く
  - W3C/KeioでHTMLに関する専任技術を募集中

21

# W3CとXML Consortium

- W3C
  - Webの基盤となる仕様の作成
  - ドメインに特化したものは作成しない
- XML Consortium
  - W3Cの仕様の普及・啓蒙
  - 実装実験
  - ドメインに特化した仕様の作成
- 両者のコラボレーション
  - パブリックな形で意見を出す
  - W3C Memberとなる

22



*Leading the Web to Its Full Potential...*

ありがとうございました .